昭和60年 2 月

くすり博物館だより

〒483 岐阜県羽島郡川島町・内藤記念くすり博物館・Phone: 058689−3111

第14号

新館建設いよいよスタート!!

―― 起工式行なわれる ――

去る１月16日、くすり博物館新館起行式が挙行されました。

現在の建物に向かって右側、温室との境に二階建てで増設され、こちらが展示場となります。総床面積約1300㎡、展示面積 860 ㎡、現在の展示スペースの２～３割増です。

10月に建物が完成で、そのあと展示工事となり、オープンは61年度になります。

◀右側手前から内藤祐次理事長 平工昭夫エーザイ常務、小野里公重川島工園長

施工ごあいさつ

内藤祐次財団理事長

くすり博物館は、エーザイの創業25周年記念行事の一環として、昭和45年に建設、翌年オープンしました。

15年を経過し、この間、一般展示のほかに、アメリカのスミソニアン博物館との交換展示、「人類の恩人ルイ・パストゥール展」「緒方洪庵と適塾展」「天然痘ゼロへの道」(ジェンナー展）などの特別展も開催し大きな反響を呼びました。

来館者は25万人を数え、海外からのお客様も78ヵ国、3000人にのぼりました。各地から寄せられた資料・図書も 46000 点にもなりました。くすり博物館の増設は、私はじめ関係者の当初からの悲願でした。

今回は展示棟のみができるわけですが、数年後には、本棟をはさんだ反対側に左右対称となるように、保存棟の建設を予定しています。これが完成しますと、本棟をはさんで鳥が翼を広げた形となります。

博物館には数多い民俗遺産があるわけですが、いい展示をし、いい保管をする施設にしたいと思っております。今回のこの増設は、鳥がはばたくためのワンウィング（片翼）となることと思います。

（以上要旨のみ）

▲新館完成予想ミニチュア

☆イメージ新たに

現在、医学・薬学に関した歴史展示を主としていますが、これに加え、「薬の正しい使い方」や「からだの仕組み」などを伝える、より一層健康科学に寄与するような展示も考えています。

新館には、このような常設展示場に加えて特別展示場も設置して、一般公開します。

また、本館は図書室、収蔵展示場に改装し、希望者にご覧いただけるようになります。

ご期待ください。

くすり事始(1)

明治3(1870)年政府は売薬取締規則を公布し、それまで自由に製造販売されていた売薬は大学東校(現東京大学)で薬方、効能、価額などを審査することになりました。

抜群有益な売薬を発明した者には7年間の専売を許し、その後は処方を公開することとし、さらに勅許、家伝秘方などの文字を用いることを禁止するなど、なかなか立派な規則でした。

この規則により第1号の公認(官許)を得たのが宝丹です。宝丹は文久2(1862)年麻疹、吐瀉が流行した時、上野池之端、守田治兵衛によって発売された売薬です。薬効は暑気あたり、胸腹の痛み、中毒、かぜ、めまい、歯痛、下り、船酔いなどで万病薬です。洋薬と違って漢方製剤のためでしょうか。

守田治兵衛はなかなかの広告上手で、明治4年創刊の新聞「新聞雑誌」第7号に報告と題した宝丹の広告記事を掲載しています。薬の新聞広告の先駆といえましょう。こうして、新聞雑誌に出た妙薬、官許第1号の良薬ということで、売上げが倍々と飛躍的に伸びました。

明治12年の効能書に次のような文があります。「開明の世となり衛生の道日々に進み致る所に病院が出来て幸福の世となった。しかし辺地や夜半に突然発病した時は、まづ宝丹で一時の急迫を救い、然して後、病院に託し、あるいは良医を仰ぎ的実の治療を受ければ天寿を全うすることを得……」と売薬の上手な使い方を教えています。

「起死回生」というキャッチフレーズはちょっといただけませんが、当時としては名文句？でした。

政府公認第1号の売薬　宝　丹

▼「宝丹」建看板　守田治兵衛は能筆家で写真のような独特の書体で有名でした。

薬草豆知識

薬用植物園のハーブとスパイス

“ハーブ”という言葉は、本来薬草や香草を含めた“草本植物”の総称で、染料になる草や殺虫に用いる植物も含めていますが、今日では一般に、薬用や料理に用いる香草を指しています。

一方スパイスは、薬味とか香辛料、と訳されており、ハーブを地中海沿岸起源の香味植物とみなせば、スパイスは熱帯地方起源の香辛料ということができます。

薬用植物園には数種の料理用ハーブがあります。数年来、ハーブやスパイス目当ての来園者が増えていますので、昨春から、料理用ハーブを集めた“ハーブコーナー”を設置し、簡単な一口メモをつけました。

魚の臭みを除くフェンネル

地中海沿岸原産のセリ科の多年草です。ヨーロッパ、アジアはもちろんのこと、北アメリカでも広く栽培され、わが国では主に北海道や長野県で栽培されています。秋に熟す果実(種子)を茴香(ういきょう)、またはフェンネル・シードと言い、薬用・香辛料として代表的なハーブの一つです。健胃・駆風(腸内にたまるガスを排出する)作用があり、古くから薬用とされてきました。

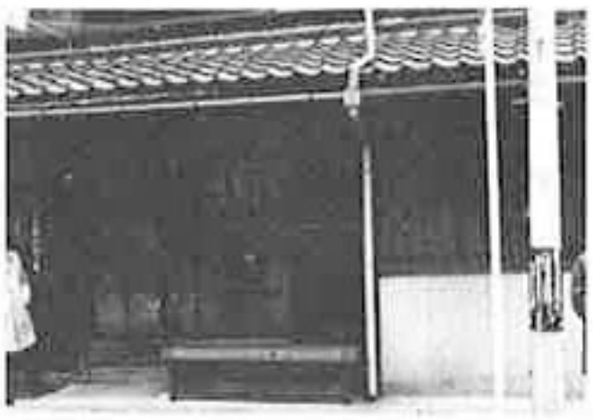
▲薬草園に咲くフェンネル

茎葉や根も、種子と共に料理に用いられ、特に魚の臭みを消して風味を出すことから、魚料理には欠かせません。また、肉料理やクッキー、パン、ソース、ブイヨンにと用途は広く、カレーにもよく使われます。インドやネパールでは、口中の臭いを消し、同時に消化を良くする目的で、食後にこの種子をつまむ習慣が広く残っているということです。

(薬用植物園　白井英夫)

新収蔵資料

☆道修町資料



▲将几のようなものが揚げ店

“大坂道修町二三丁目に薬屋のほかなし”と「世間無いことづくし」にうたわれたほど、道修町は薬問屋の集結した街でした。現在その面影はなくなりつつあり、当時をしのぶことのできる揚げ店も、前田吉薬品の店先にあるものを残すだけとなっていました。ところが、店の改造により、最後の揚げ店も姿を消そうとしていました。そこを塩野太郎氏、前田吉太郎氏のご好意によって当館に寄贈していただきました。

また、出し櫃（屋号を記した箱で揚げ店の上に置いた）も北垣清兵衛氏からいただきました。

☆「宝丹」看板ほか31点

山形勉強堂・山形常夫氏（札幌市）からの寄贈です。20数点の看板はすべて金箔を施してあり、絢爛豪華。明治後期～大正のもので、当時はこれらの看板を軒先高くずらりと掛けていました。このほかに、乳鉢・乳棒などもいただきました。

☆ビタミンB_{12}・アンプル

悪性貧血に有効な物質・ビタミンB_{12}の先駆的研究ともいえる肝臓からの抽出エキス（X^E）は、ノルウェーのナイガード社・Dr. Perlalandたちによって作り出されました。これは後に、ビタミンB_{12}の結晶となりました。当時のアンプルは3本しか現存しておらず、その内の1本（1937年5月20日の日付け入り）をナイカード社社長、Dr. Blixからいただきました。

☆Tin Ball（蛭運搬用具）

17～19世紀頃、西欧では瀉血が盛んに行なわれていました。瀉血とは血液の一部を体外に出す治療法で、注射針などを使用するほか、蛭に血を吸わせることもありました。この瀉血、人々の迷信的信仰も手伝って盛んに濫用され、フランスでは1883年、4150万匹もの蛭を輸入したということです。

ルセル・ユクラフ社（仏）のDr. Eduard Sakiz、Mr. Pierre Jolyからの寄贈品で、“18世紀”の鑑定書付きです。

☆石薬12点

禹余粮、太一禹余粮、石燕、真珠岩、水晶など数種の石薬を国木田誠一氏（大阪府寝屋川市）から寄贈されました。国木田さんは、化石や密教仏などの収集家として研究者の間で有名です。

禹余粮、太一禹余粮は正倉院薬物中にもみられる石薬で、殻の内部に粘土の塊が入っているため、振るとコトコト音がします（中の粘土の部分が漢薬となる）。岐阜県瑞浪市（鳴石）、同県多治見市（壺石）のものも有名です。

☆上記以外の寄贈・寄託

次の方々からも、貴重な資料や図書を寄贈・寄託していただきました。（逐次刊行物は除く）

岩手：岩手県立博物館
秋田：秋田県立博物館
宮城：東北大学薬剤部
栃木：信田重光
東京：太田康彦、大槻彰、大森暢久、勝井五一郎、桂廣太郎、加藤正、川瀬清、木村雄四郎、後藤隆郎、小林啓紀、阪本秀策、嶋田尚、添川正夫、田邊普、田畑一作、田宮商会、虎谷豊二、長沢佳熊、西谷篤彦、沼倉延幸、平井秀松、薬事日報社、山田光男、山本平
神奈川：間中喜雄、根本曽代子
新潟：蒲原宏
富山：富山医科薬科大学
石川：大瀧武雄
静岡：岩崎鐵志
愛知：大原準之助、奥田潤、神谷昭典、篠田達明、世古口徹、千葉清子、南山大学人類学博物館、松浦薬業、松本光雄、安井廣、安江政一、湯浅四郎
岐阜：青木一郎、岐阜県立図書館、中川連、早川正子、久金彰、瑞浪市化石博物館、水野端夫
三重：茅原弘
大阪：梅溪昇、大阪薬科大学、小松良夫、柾木良子
京都：杉立義一、宗田一
兵庫：土岐純次
鳥取：森納
長崎：中西啓
韓国：金快正
タイ：Parasan Daranond

（敬称略）

とぴっくす

▶ハンドブック好評

「薬用植物に親しむためのハンドブック」が刊行され、3ヵ月で3000部売れました。朝日、中日、岐阜日日などの各紙に紹介され、電話や手紙による問い合わせが殺到する毎日でした。薬用植物園内にある250種の薬草について、その薬効・薬用部分などをコンパクトにまとめてあります。

▶「クイズNo.1を採せ！」

ＮＨＫ北陸東海の上記の番組に、日本で唯一のくすり博物館が取りあげられました。撮影当日、レポーターは江戸時代の薬売りに扮しての奮戦ぶり。写真の絵馬を使って次のような珍問が出されました。

「この絵馬は何の病気平癒に使われるのでしょう」正解は眼の病です。この一見怪しげな絵、実は田螺で、農家の人が昔、稲穂で眼をついた時田螺を禁食して回復を待ったことに由来しています。

（埼玉、菅谷田螺不動）

▶パソコン導入

昨秋より、数万点にも及ぶ資料・図書データをコンピュータへインプットする作業を進めており、60年度中には終了予定です。終了後は資料・図書の有無などの問い合わせに素早く答えることができます。

▶ドイツの“くすり博物館”案内

西ドイツ・ハイデルベルグ城内にあるドイツ薬事博物館、ここを訪れる方は日本語版の解説書を目にされることでしょう。実はこれ、当館で編集したもの。好評で在庫がなくなったということなので、再びこの小冊子をプレゼントしました。

▶資料貸し出し

昭和59年度(12月まで)中、下記のとおり、資料貸し出しを行ないました。

市立名古屋科学館：特別展「はかる」へ両替天秤他75点。

岐阜県博物館：特別展「濃飛の戦国武将」へ生薬5点。

朝日新聞社主催「オランダフェア」へシーボルトの薬箱ほか21点。

岐阜県博物館：特別展「美濃の蘭学」へ解体新書ほか24点。

このほか、福井、愛知、岐阜、岡山の「くすりと健康展」にも出品しました。

◎ご利用ください

皆さんに親しまれてきておりますくすり博物館見学記念品、出版物は現在、次のとおり販売しています。

尚、配達ご希望の方は、白沢大、らんびき大、共に2300円（送料・梱包料）で承わっております。

記念スタンプ

白　沢

博物館全景と薬研

くすり博物館見学記念品・出版物

図録「目で見るくすりの博物誌」		1,900円	絵はがきＡ・Ｂ	各８枚組	各 200円
ガイドブック「くすり博物館」		300円	置物「白沢」大	病よけ h 14cm	8,000円
「蔵書目録　和漢書の部　1977」		3,000円	置物「白沢」中	〃 h 6.5cm	900円
絵本「くすりになるくさやき」		600円	置物「白沢」小	〃 h 3cm	300円
「薬用植物に親しむためのハンドブック」		200円	置物「らんびき」大	蒸留器　箱入り	10,000円
綿絵複製「房事養生鑑・飲食養生鑑」	２枚組	1,000円	置物「らんびき」中	〃	6,000円
綿絵複製「升屋」		500円	置物「らんびき」小	〃	2,000円
綿絵複製「和胸丸」		500円			

館長 **青木允夫**　学芸員**小山みか子**(編集担当)　司書**加藤靖子**　庶務**稲川朋子**
くすり博物館９：00～16：00開館(毎月曜日・年末年始　休館)　●お問い合わせは最寄りのエーザイ支店・出張所に